

## コメント

従来の石流しバルーンカテーテルは、ERCP の造影像で指摘し得ない微小な遺残結石も洗浄水流で掻き出すことが出来るが、ガイドワイヤルーメンがないため、胆管挿管が困難な症例には適さない。また、オフセットバルーンカテーテルは、通常のバルーンカテーテルと比較し効率よく胆管結石を掻き出すことが可能であったが、下部胆管末端に小結石がはまり込み、完全に截石出来ないことも経験していた。今回、発売された石流しオフセットバルーンカテーテルは、両者の長所を組み合わせたバルーンカテーテルであり、截石困難症例に対して、非常に有用である。石流しオフセットバルーンカテーテルは、通常の胆管結石症例の治療に用いられるばかりでなく、術後腸管の胆管結石症例に対し、特にその有用性が期待される。バルーン内視鏡を用いた術後腸管の ERCP は、胆管挿管が難しく、その後の内視鏡的処置にも難渋する。中でも胆管結石の治療では、頻回にデバイスの出し入れを必要とするため完全截石を得ることが難しい。石流しオフセットバルーンカテーテルとバスケットカテーテル NT を併用することで、術後腸管の胆管結石症例でも容易な截石が期待できる。

※注意：石流しオフセットバルーンカテーテル（EXP71820F）のカテーテル最大径は 2.4mm であるが、推奨される鉗子口径は 3.7mm である。フジノンのダブルバルーン内視鏡 EI-530B の鉗子口は 2.8mm であり、挿入することは可能であるが、使用する際は術者の責任の上で用いる必要がある。石流しオフセットバルーンカテーテルを挿入する前にオリーブオイルを 1-2ml 鉗子口から注入しておくことが、挿入するための ‘コツ’ である。

### 石流しオフセットバルーンカテーテル 仕様

| 品 番       | バルーン拡張径 (mm) | 有効長 (cm) | カテーテル最大径 (mm) | カテーテル先端部外径 (mm) | バルーン容量 (mL) | 適合鉗子口径 (mm) | JANコード        |
|-----------|--------------|----------|---------------|-----------------|-------------|-------------|---------------|
| EXP71820F | 18           | 200      | 2.4 (7F)      | 2.10 (6.5F)     | 5.0         | 3.7         | 4545367059750 |

■販売名：エクストラクションバルーンカテーテル プラス  
 ■認証番号：222ABBZX00075000  
 ■特定保険医療材料分野名及び機能区分：胆道結石除去用カテーテルセット (2) 経内視鏡バルーンカテーテル ②トリプルルーメン の一部

### バスケットカテーテル NT 仕様

| 品 番       | バスケット形状     | バスケットサイズ (mm) | カテーテル全長 (cm) | カテーテル外径 (mm) | 適合鉗子口径 (mm) | 適合ガイドワイヤ (mm)    | JAN コード       |
|-----------|-------------|---------------|--------------|--------------|-------------|------------------|---------------|
| NBWS8620S | ドルミア型 6 線小型 | 40×20         | 200          | 2.6          | 2.8 以上      | 0.89 (0.035inch) | 4545367030223 |
| NBWS8620L | ドルミア型 6 線大型 | 60×30         | 200          | 2.6          | 2.8 以上      | 0.89 (0.035inch) | 4545367030230 |

■販売名：ゼメックスバスケットカテーテル NT  
 ■認証番号：21500BZZ00057000  
 ■特定保険医療材料分野名及び機能区分：胆道結石除去用カテーテルセット (3) 採石用バスケットカテーテル

製造販売元

**ゼオンメディカル株式会社**

URL: <http://www.zeonmedical.co.jp>

XEMEXは日本ゼオン(株)の登録商標です。

## CASE REPORT 1

### 術後腸管の総胆管結石症例に対する石流しオフセットバルーンとバスケットカテーテル NT の有用性

東北大学病院 消化器内科

**菅野 敦 先生**



#### はじめに

近年、術後再建腸管の胆膵疾患症例に対するバルーン内視鏡を用いた ERCP 関連手技の有用性が報告されている。バルーン内視鏡を用いた ERCP は、十二指腸乳頭部などの目的部位まで内視鏡を挿入することが出来ても、その後の胆道処置に難渋することが多い。特に、術後再建腸管症例の胆管結石截石術は、截石用デバイスの挿入やコントロールが難しいこと、鉗子口径が小さいために 使用できるデバイスが限定されることから、しばしば治療が困難な症例に遭遇する。

石流しオフセットバルーンカテーテル（EXP71820F）（図 1）は、従来のオフセットバルーンと石流しバルーンの有用性に加え、ガイドワイヤルーメンも備えていることから、術後腸管の胆管結石症例に有用である。

また、バスケットカテーテル NT（NBWS8620S, NBWS8620L）（図 2）も高い結石把持能に加え、ガイドワイヤ挿入ルーメンと造影剤注入ルーメンを有し、石流しオフセットバルーンカテーテルと併用することで、高い截石能を発揮する。今回、ダブルバルーン内視鏡を用い、石流しオフセットバルーンカテーテルとバスケットカテーテル NT を併用することで截石し得た術後再建腸管の胆管結石症例を経験したので報告する。

図 1



図 2





## 症 例 1

64 歳 男性

胃癌のため胃全摘術と Roux-en-Y 吻合にて再建した既往がある。夕食後、突然の腹痛と血圧低下を認め、当院に救急搬送された。総胆管結石による急性化膿性閉塞性胆管炎と診断され、経皮経肝胆嚢ドレナージが施行された。全身状態が改善した後に、胆管結石截石目的に当科を紹介された。ダブルバルーン内視鏡を挿入、胆管造影にて下部胆管に結石を認めた（図 3）。ガイドワイヤーを胆管深部に挿入し、15mm 径胆管拡張バルーンで乳頭部を拡張後、バスケットカテーテル NT（図 4）と石流しオフセットバルーンカテーテル（図 5）を併用し、截石した。



図 3

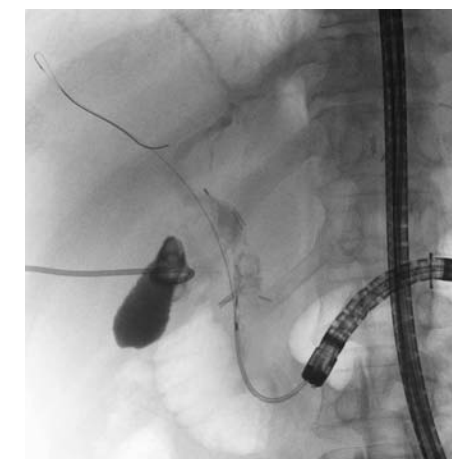


図 4



図 5

## 症 例 2

77 歳 男性

10 年前に胃癌のため胃全摘術と Roux-en-Y 吻合にて再建術が施行されていた。右側腹部痛にて前医を受診したところ、CT にて下部胆管に総胆管結石を認め、加療目的に当科を紹介された。ダブルバルーン内視鏡を挿入、胆管挿管後（図 6）、8mm 径バルーンにて乳頭部を拡張した。バスケットカテーテル NT のみでは小結石をすべて把持できず（図 7）、石流しオフセットバルーンカテーテルを併用することで完全截石が得られた（図 8）。特に、石流しオフセットバルーンカテーテルは、胆管末端部分にはまりこんだ小結石の截石に極めて有効であった。

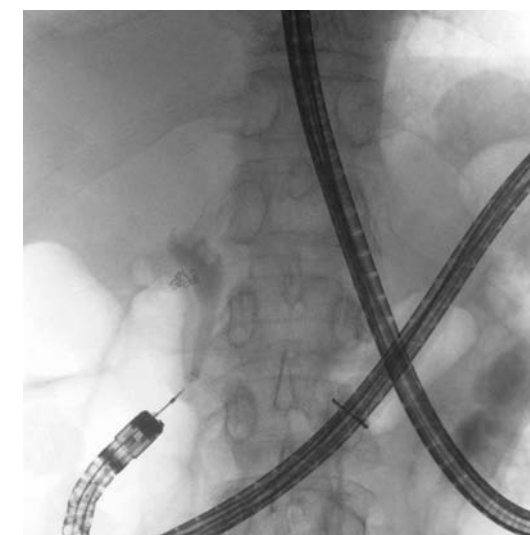


図 6

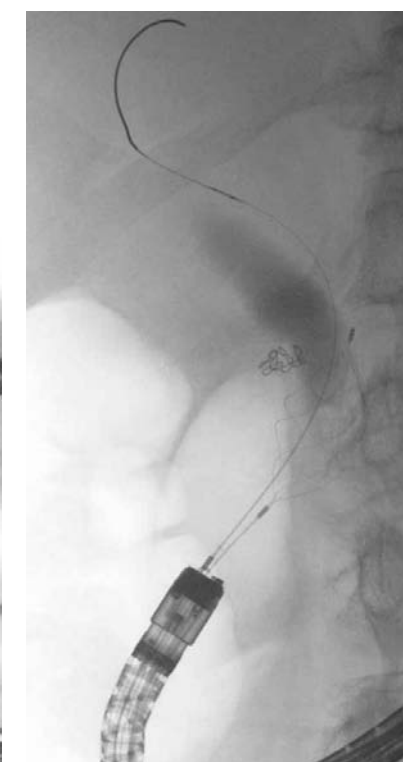


図 7



図 8